

只見歴史探訪コース

江戸期から幕末にかけての只見の歴史にふれるコースです。戊辰戦争で傷つき倒れた河井継之助の終えんの地、そして県指定の重要文化財「旧長谷部家住宅」、国指定の「旧五十嵐家住宅」を訪ねます。只見川に寄り添う集落のたたずまい、山々の連なりにも目を向けてくださいね！



▲河井継之助記念館(左)と継之助の墓(右)

1 河井継之助記念館

河井継之助終えんの地に建てられた記念館では、「終えんの間」が移設され、戊辰戦争の史料、司馬遼太郎の書などが展示されています。受付のスタッフに案内をお願いすれば、館内を丁寧に解説してもらえますので、お気軽にしてみましょう。隣接の「山塩資料館」も合わせて見学することができます。

〈営業時間〉10:00～16:30(木曜定休、冬期休館)
〈入館料〉おとな300円、子ども100円

2 医王寺 河井継之助の墓

医王寺は、開基、唐治2年(1143)という只見でもっとも歴史のある古寺です。墓は、継之助の細骨を村人の手により医王寺に手厚く納めたものです。町指定の文化財になっています。

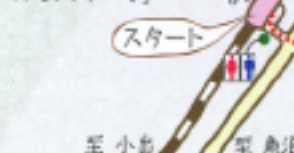
「山塩資料館」塩沢の名のとおり、昔、塩分が多く含んだ井戸水から塩を生産していたんだ。

ミニ知識

八十里越●只見町叶津から新潟県三条市まで約80km、鉄道が整備される以前は会津と越後を結ぶ重要な地方道でした。河井継之助は会津へ逃れる途中、雷型峠で「八十里越えけ武士の越す時」という自讃の句をよんだと言われています。長年にわたる八十里越下道にて越後との交易により、只見町は越後文化の影響を受けて来たと考えます。



只見町観光まちづくり協会のインフォメーションセンターと特産品販売の「あつけーる」



※2013年8月現在、只見町只見駅から会津川口駅間は、2011年の新潟・福島豪雨の影響で代行バス運行になっています。

只見駅からおよびの距離

